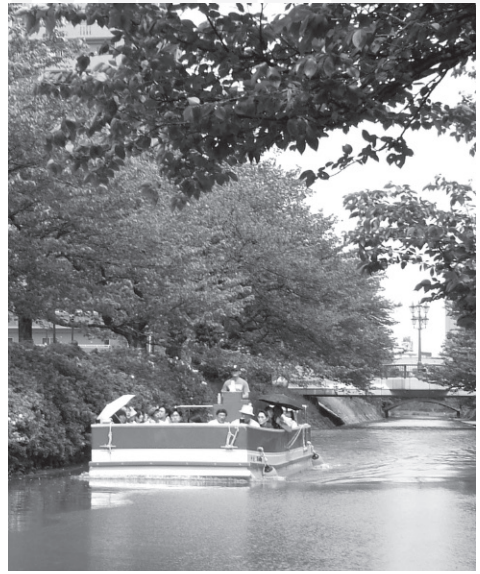
富山観光遊覧船㈱

夢と課題を探る！

「富山城から富山港への舟運を復活させよう」と、1987年、国、県、市、経済界の支援のもとスタートした富山観光遊覧船㈱。「水の都とやま」のグランドデザイン、「夢の神通回廊」構想の、夢と、課題を探ってみた。



▶2007年春、松川に「神通」（定員41名）就航。「滝廉太郎Ⅱ世号」が富岩運河でチャータークルーズを開始するため、リオ・サンアントニオクルーズと姉妹提携10周年を記念し、サンアントニオの遊覧船のデザインを採用した新造船を建造。▼富山県のチャーターで環水公園でナイトクルーズを楽しむ「滝廉太郎Ⅱ世号」の乗客。

歴　史

1987年　国、県、市、経済界の支援で富山観光遊覧船㈱設立

1990年　中沖知事より、飲食の出来る船の導入の要請を受ける

1994年　中部運輸局「松川遊覧航路」事業を許・認可
「滝廉太郎Ⅱ世号」が就航

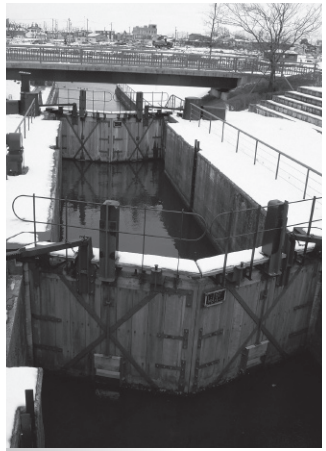
1996年　中島閘門復元で「滝廉太郎Ⅱ世号」の設計図を国に提出

1997年　中沖知事、松川～いたち川～富岩運河を通した舟運の可能性を検討するよう土木部に指示

白井土木部長、遊覧船にて、松川～いたち川～牛島閘門視察。舟運の可能性を探る

1999年　「滝廉太郎Ⅱ世号」全国運河サミットで、富山県のチャーター便で運河に就航。富岩運河クルーズ開始

国指定重要文化財
中島閘門　運河の河口から約3.1㎞上流に位置し、約2.5mの水位差を二対の扉で調節するパナマ運河方式の閘門。1998年に復元された。扉は珍しいリベット接合（約15,000本）。



国登録有形文化財
牛島閘門　富岩運河といたち川の間に建設された。「滝廉太郎Ⅱ世号」が通れるよう約60cmの水位差を調節する。2001年に復元された。

課題Ⅰ ダイオキシン

なぜ富山県は、中島閘門下流への船の運航を許可しないのか？

それは、富岩運河の中島閘門下流は、ダイオキシン汚染問題が未解決だからだ。運河の水深は1～2メートル。「船が通ると河底のダイオキシンをスクリューで巻き上げてしまい、下流に流れて漁業被害を発生させてしまう」からだ。

もし、「富山湾の魚はダイオキシンに汚染されている」、という風評がでようものなら、大パニックになり、「漁業者が大打撃を受ける」ことになる。県はそれを恐れ、船の通行を許可しないのだ。

「ダイオキシン汚染問題が解決しない限り、船の運航は許可できない」、というのが、2001年にダイオキシンが発見されてからの、富山県の一貫した答弁だ。さらに、やっかいな問題が横たわる。

課題Ⅱ 貯木

中島閘門下流には大量の木材が貯木されており、その木材で船の運航を妨げている。また、木材が下流に流れ出すと危ないので、運河には鉄トビラ（ゲート）が閉められ、その鉄トビラを開けないと、船が通行できないようになっている。特に、毎年春から夏にかけ、運河は新しく入った木材で埋め尽くされ、秋になってようやく少なくなってくる、という状態だ。

こうした理由で、富山県は中島閘門下流の船の運航を許可していないのだ。現在、これらの問題が解決する見通しは、全くたっていない。富山観光遊覧船㈱では、「富山県から『中島閘門上流での活用を諮ってほしい』との要請を受け、当面、小運河クルーズと、中島閘門探検クルーズで、富岩運河を活性化していきたい」と抱負を語る。

サクラパックス(株)

2000年	牛島閘門を「滝廉太郎Ⅱ世号」が通れるよう復元
2001年	中島閘門下流で大量のダイオキシン汚染発見、富山県が船の運航を禁止
2002年	神通川直線化100周年記念「川と街づくり国際フォーラム実行委員会」発足
2003年	リバーフェスタ「川と街づくり国際フォーラム」開催 「水の都とやま」のグランドデザインを考える「夢の神通回廊」を出版 サンアントニオ視察団、多数出発（2003～2005年）
2006年	北陸信越運輸局「富岩運河・いたち川遊覧航路」事業を許・認可 「運河のまちを愛する会」が「滝廉太郎Ⅱ世号」でチャータークルーズ開始
2007年	「滝廉太郎Ⅱ世号」チャータークルーズで、富岩運河へ。松川に新造船「神通」（定員41名）が就航。 森富山市長他、市職員サンアントニオ視察 富山県「滝廉太郎Ⅱ世号」をチャーター。完成した小運河でナイトクルーズ開始

運河で船旅 水面に歓声

富山・富岩環水公園で遊覧船試乗会

平成11年(1999年)8月7日(土曜日)　富山新聞

初の運航、園児ら満喫

二十六日の「全国運河サミットinとやま」開催を記念し、初めて運航されることになった富山市の富岩運河遊覧船試乗会は六日、富岩運河環水公園で行われ、乗り込んだ地元の園児らが中島閘門のダイナミックな仕掛けに目を見張ったほか、水面に広がる緑や、町並みなどの光景に大きな歓声を上げた。

富岩運河は昭和九年に完成した。昨年五月に国の重要文化財に指定された同運河のシンボルである中島閘門は、門の閉開によって水位が約二・五メートル上、下降することが特徴である。

運航される遊覧船は、五十三人乗りの「滝廉太郎二世号」。ふだん松川を運航しており、この日はクレーンで富岩運河に運ばれた。

発船式では、中村孝一富山観光遊覧船社長、吉田弥一郎県土木部長代理、新田嗣治朗日本海ガス社長が順にあいさつし、テープカットした。

園児たちを乗せて出航する遊覧船＝富山市の富岩運河環水公園

月内いっぱい 土日など運行

試乗は二回にわたって行われ、愛宕、樹心の両幼稚園児や県関係者ら約百人が船旅を楽しみ、しばし暑さを忘れた。遊覧船は今月の毎週土、日曜と十六日、富岩運河環水公園を発着点運行される。出発は午前十一時、午後一時、同三時、同五時の四回。大人五百円、中学生以下無料。問い合わせは富山観光遊覧船㈱へ。

あいの島周遊クルーズ

滝廉太郎Ⅱ世号に乗り、環水公園をめぐる船旅

DATA

所要時間	定員	料金	
約15分	53名	大人800円 小人400円	毎日曜 5月～10月 始発 AM11:00 ～最終 PM 3:00

Guide ガイド

満々と水をたたえた神通川。その昔、神通川が湾曲して流れていた頃、富山城から富山港へは舟運が発達し、最大の通商路だったこの川を、帆船が往来していた。江戸から明治、大正、昭和初期、この、環水公園一体は、神通川の中だった。「滝廉太郎Ⅱ世号」に乗り、そんな当時に思いをはせれば、まるで自分自身が神通川を旅している気分！環水公園から見える現在の風景も雄大で、きっと心に残る船旅が楽しめるはず。「滝廉太郎Ⅱ世号に乗って、「あいの島周遊クルーズ」を味わってみませんか。

滝廉太郎Ⅱ世号の中島閘門探検

チャータークルーズで富岩運河の船旅を満喫

DATA

所要時間	定員	チャーター料金	
約60分	53名	15～30名 70,000円から	5月～10月 AM11:00 ～PM 3:00

Guide ガイド

昭和初期、神通川廃川地を埋め立て、富山市の中心部を作るという、大都市計画が実行された。この時、運河を掘った土砂を使用することになり、富岩運河はこうして誕生した。

富山港と上流部の水位差2・5メートルを調節し、船を通すために、下流から3・1キロの所に中島閘門が設けられた、これはパナマ運河方式の閘門で、水のエレベーターともいえる。「滝廉太郎Ⅱ世号」のチャータークルーズで、富岩運河の船旅を満喫してみてはいかがですか。